

日本特別ニーズ教育学会

(SNE学会)

Japanese Society for Study of Special Needs Education

会報 第18号

2005年7月

目次

<第11回大会プレ企画>

世田谷区立烏山小学校 つくし学級公開研究会の報告

p 2

<事務局からのお知らせ>

p 5

<第11回大会プレ企画>

世田谷区立烏山小学校 つくし学級公開研究会の報告

報告 世田谷区立烏山小学校 高橋浩平
(SNE学会第11回大会 事務局長)

2005年6月10日、東京都の世田谷区立烏山小学校(児童数491名)のつくし学級(知的障害の特殊学級、在籍児童数31名)の公開研究会が行われました。つくし学級では、特に算数の「数の系統性」ということに焦点をあてて、2002年から公開研究会を行ってきました。今回は第5回ということで、いままでの研究のまとめも意識しながらの公開研究会でした。

つくし学級は以下のような学級編成をとっています。

1組	1年4人2年2人	合計6人	担任2(古林・高田)
2組	3年3人4年4人	合計7人	担任1(荒井)介添員1
3組A	5年6人	合計6人	担任1(岩澤)介添員1
3組B	5年5人	合計5人	担任1(裕也)介添員1
4組	6年7人	合計7人	担任1(高橋)介添員1

グループ学習は、この生活年齢による基礎集団を解体して、課題別に編成しています。

グループ	人数	在籍学年					
		1	2	3	4	5	6
①高橋グループ	6			1		1	4
②古林グループ	6			1	2	2	1
③岩澤グループ	5	1			1	2	1
④裕也グループ	3				1	2	
⑤荒井グループ	5		1	1		3	
⑥高田グループ	6	3	1			1	1

このグループ編成は、いわゆる課題別・能力別編成ですが、それだけでなく、児童同士や指導者との相性、リーダー性なども加味して決めています。担任が6人なので、6以上のグループを組めない、という限界もあります。

公開研究会ではこの6つのグループ学習を公開授業として公開しました。6つのグループの概略は以下の通りです。

①足し算(「ふたごのきょうだい」)…足し算を自力でとく、自分でやったことを実際に前に出て発表(表現)できる。「りんご○コ+りんご○コ」の問題をタイル(くるるん)を使って説明する。

②足し算(「たすマンとこびとさんとしずくくん」)…「9+7」型の繰り上がりのある足し算ができる。あっちの山でとってきたみかん○コとこっちの山でとってきたみかん○

コを合わせていく。

③足し算（「れんけつでんしゃガッチャンコ！」）…足し算の場面（電車の連結）を操作で表し、数式との関係をつかむ。「+」と「=」の記号を用いて、操作を式で表すことができる。

④5までの数（「がたんごとん がたんごとん」）…1～3までの量としての数と、4や5までの数の違いをイメージする。ぴったりの数のものを選んでいく。

⑤足し算（「かえってきたたすマン」）…足し算のイメージをもつ。5を固める操作を確実にする。

⑥5までの数・5の階段作り（「くるるん王子のおやつのはんぶん」）…タイル（くるるん）の操作になれる、操作を通して5をまとまりとしてみるイメージをつくる。

こうした授業を作っていく過程で、つくし学級では、算数の授業作りのポイントとして次の4つを掲げています。

ポイント1 集団

- ①小集団によるグループ学習（3名～多くても6名）
- ②集団の組み方…課題別・能力別+相性・リーダー性
- ③みんなでわかっていくこと

ポイント2 操作活動

- ①障害の重い子にとっては、操作をすることでその思考を見ていくことができる。
- ②軽度の子にとっては、具体的なイメージをすること、自分がやったことのたしかめにもなる。

ポイント3 ストーリー性

- ①教科書を作る。キャラクターを作る。ストーリーを作る。
 - ②その世界で遊ぶ中で数の仕組みを理解していく。
- ストーリーを楽しむ中から学習課題へと向かうことができる。

ポイント4 全体の流れと個別の学習

- 全体の流れは変えずにその中で個別のねらいを作っていく。
- 集団としての学びを大事にする。
- 個別の課題も追求する。

それぞれの授業も、このことを土台に置きながら組み立てられてきました。

後半の研究協議会では、「『何をもって1と数えるのか』という深めが必要ではないか」「子どもたちの認識の力をどうとらえるか、子どもたちの実態をどうつかんでいるのか」（奈良教育大学・越野）という指摘があり、学級からは、子どもたちの実態と課題という点から「集団でやることで、まねてできたことであとから認識がついてくるということも実感としてある。課題がちょっと難しくても集団で引っ張られてやれることもある」（古林）という説明がありました。また「つくし学級と通常学級の接合性の問題は？。通常教育と連続したものなのか？」「数の学習に早く入りすぎていないか？」（鳥取大・渡部）という質問には「通常学級は通常学級のカリキュラム。むしろつくし学級の方が最近通常教育との関連性を意識している」「能力の高い子どもとわかっていてもけっこう分かっていない。やっていく中で戻っていく必要もある。数の学習に入っている子どもも数以前の学習を振り返っていく必要があると思っている」（高橋）「数ばかりを扱っているわけでは

なく、『大きい小さい』なども取り組んできた。ただ6年間ずっと同じ課題ではいけないのではないかと。行きつ戻りつを大切にしたい」（裕也）との説明がありました。さらに渡部氏から「わかりやすいつくし学級の教材教具を通常学級に導入していくことも検討したらどうか？」という指摘もあり、特別支援教育に向けてそうしたことも考えたいと思いました。

助言者の先生方からは、「系統性は大切だが、それをそのまま教えるということではなく先生がわかっていればいいこと、子どもを見つめて集団の中でどう授業を進めていくかが大事」（日本障害児教育研究所・喜田）「①「わかる」ことを大事にしていること、「評価」活動が入っていることは貴重②ストーリー性に共鳴する。算数の学習として意味があった③学び合いの仲間関係をみていきたい④まちがいを大事にしながら学習の共有を」（和光大学・梅原）「操作活動ができればそれでいいというところで終わらないように。操作活動をどう数の理解につなげていくか。集団でやることをベースにしていることとつながられないか。操作を分業してやっている活動もあった。いろんな役割をやる中でわかっているプロセスがあれば集団の意味がある。正解を導くまでのプロセスを丁寧に分析していくと集団で学び合う中で操作活動が内面化していく過程が見れるのではないかと」（茨城大・新井）「教科算数ということにとらわれすぎるとすぐ数や式が出てきてしまう。取り組みが直線的になって授業がつまらなくなる。教科以前の取り組みをどう豊かにしていくか」（東京学芸大・渡邊）「小学校6年間中学校3年間でどういう子どもたちを育てていきたい」「算数だけでなく横断的に国語や社会などの表もつくってほしい」（滋賀大・窪島）等貴重なご助言をいただきました。

東京都内の心身障害学級（特殊学級）の先生方を中心に、都内養護学校の先生たちも参加され、また保護者や通常学級の同僚の参観も含めると80名近くの参加があり、それだけ多くの人数が集まったのは学会の先生方に多く参加していただいたことが大きかったと改めて感じています。

私自身、このSNE学会に設立当初から参加させて頂き、「算数」や「総合」の授業を報告する中で、ずいぶん勉強させてもらいました。この学会を通して学んだことは大きかった、と思いますし、実践の場で生きていると感じています。

今度の第11回大会では、課題研究の一つとしてつくし学級の取り組みについても報告する予定です。会員みなさん、ぜひ和光大学にお越し下さい。今後の特別支援教育はどうなるのか、私たちが考えてきた特別ニーズ教育はこれから実践的にどのように展開していけばよいのか、おおいに議論し、実りある大会にしたいと思います。みなさんのお越しをお待ちしています。（文中敬称略）

【学会事務局からのお知らせ】

1. 学会パンフレットを新しくしました。

学会名称が日本特別ニーズ教育学会に改称されたことを受けて、学会パンフレットを新しくしました。新パンフレットは研究大会までには印刷が完了する予定です。研究大会の事務局デスクに見本をおきますので、興味のある方はご覧になってください。

2. 学会ホームページを新しくしました。

今後、学会が拡大・発展していくためにはインターネットからの情報発信が欠かせないものと考え、学会ホームページを事務局で管理することとしました。新しいURLは以下の通りです。まだ、作成した内容に問題がないかをチェックしている段階ですが、秋頃までには検索エンジンでヒットするように整備していきたいと考えています。会員の方々にも新しいホームページをご覧いただき、ご意見等がございましたら事務局までご連絡いただければ有り難く存じます。

学会ホームページURL <http://www17.ocn.ne.jp/~snejapan/index.html>

3. 2006 年度以降の研究大会開催地他について(6月10日理事会報告)

6 月に開かれた理事会で 2006 年度の研究大会を鹿児島で、また 2007 年度の研究大会を東京で開催する方向で検討が進んでいます。10 月の総会で最終的に決定いたします。また、今年度から学会ブレ企画や研究委員会企画シンポジウムなどを各地で開催していくこととしました。2005 年度中の企画の詳細が決まりましたら会員の方々にご連絡いたします。

4. 会費未納入の方は納入をお願いいたします。

2005 年度の会費を納入していない方は納入をお願いいたします。9 月までに納入下さった方には SNE ジャーナル新刊号を自動的に送付いたします。今年度より 10 月以降に納入された方のジャーナル送付は来年の 2 月頃とさせていただく旨、4 月の会報発送の際にご連絡いたしました。納入がお済みでない方は、お早めに納入下さいますようお願いいたします。

郵便振替 00110-5-250638 加入者名 SNE 学会
年会費 7000 円 (新規入会の場合は新入会費 2000 円が別途必要です)